



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

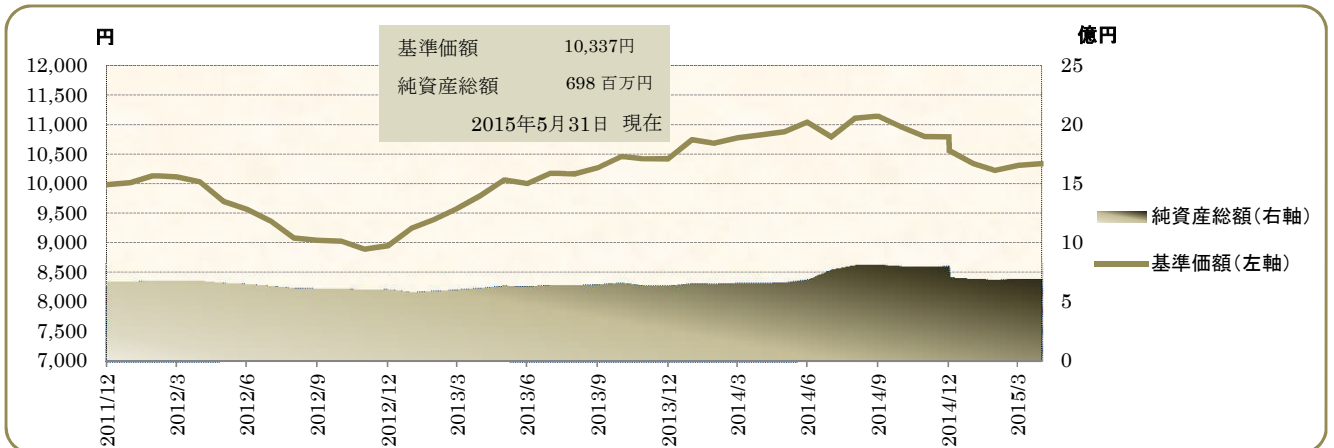
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年5月31日

## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

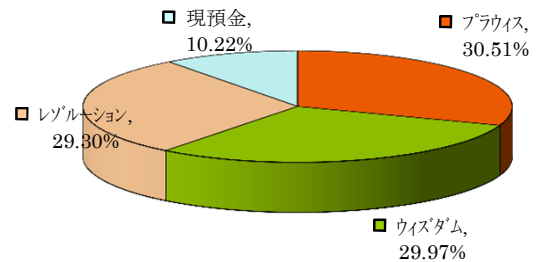
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%								-4.22%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年5月31日	
基準価額:	10,337円	対前月比 29円
純資産総額:	698百万円	対前月比 +2.9百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.01%
基準価額騰落率	6ヶ月	-4.24%
設定来	ファンド	3.37%
基準価額騰落率	TOPIX	131.31%
	日経平均	144.75%

## 投資対象ファンドへの資産配分 (2015年5月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%								-0.62%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%								-2.49%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%								-5.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライスイ	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%

\* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 相場動向

5月の株式相場は、日経平均で5.34%上昇の20,563.15円、TOPIXで5.08%上昇の1,673.65ptとなりました。円安ドル高などを背景に、月末にかけて11日連騰するなど大幅な上昇となりました。東証一部の時価総額は606兆円と過去最高を記録しました。

上旬は、大型連休前の持ち高調整売りや、イエレン米FRB議長の「米国株は割高」発言を受けて米株安となったことなどから、下落して始まりました。

中旬は、堅調な米雇用統計や中国の追加利下げを背景に米中の景気減速懸念が後退し海外株が下げ止まると、上昇に転じました。主要企業の決算が概して堅調だったことや、1-3月期実質GDPがコンセンサスを上回ったことも支援材料となりました。好業績銘柄や株主還元強化を発表した銘柄に買いが集まりました。

下旬は、米利上げ観測から米国株が下落したものの、1ドル124円台まで進んだ円安ドル高による企業業績改善期待が上回り、外需株を中心に買われ上昇しました。日経平均はITバブルのピーク2000年4月の高値に迫る水準となりました。

東証一部の売買代金は、9か月連続で2兆円を上回りました。需給面では、海外投資家が4か月連続で買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、非鉄金属、電力・ガス業、機械、保険業、鉄鋼が上位となり、精密機器、倉庫運輸、海運業、医薬品、鉱業が下位となりました。

ファクター面では、PERやPCFR、PSRなどのバリュエーション指標が特に有効でした。決算発表を受けて利益成長率、売上高成長率などのファクターも有効でした。

## 組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

### 【ブライズ】

#### <ファンド運用状況>

5月の運用成績はJPYクラスで+0.84%となりました。プラスの要因として、①ショート比率が高かった食品株が相対的にアンダーパフォームしたこと、②決算発表を受けて、機械やその他製品セクターで割高・割安の修正があったこと、③先月と同様にPEなどのバリュエーションファクターが効いたことが主な要因と考えられます。

セクター別の損益は機械、食品、金融、その他製品、非鉄金属セクターでプラスとなり、サービス、商社セクターでマイナスとなりました。

### 【ウィズダム】

#### <ファンド運用状況>

5月の運用成績はJPY-Fクラスで+0.85%でした。主に景気敏感セクター内の好業績・割安株が相対的にアウトパフォームしたことに加えて電力セクターをネットでロングポジションにしていたことがプラス収益に寄与しました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで富士重工業(7270)、三菱重工業(7011)、ショートポジションでは三菱所(8802)、石油資源開発(1662)がプラス収益に寄与しました。

### 【レゾリューション】

#### <ファンド運用状況>

5月の株式市場は、一旦小型株優位が続いたものの、月後半の上昇相場局面において劣後し、月を通してみると、小型株の弱い状況に変化はありませんでした。また、大型株を中心とした高バリュエーションなディフェンシブ銘柄の弱さが目立ちました。

ポートフォリオは、電機、情報通信、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売セクターをアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績好調が続く山一電(6941)やエレコム(6750)など、個別銘柄要因によるロングがプラスに寄与しました。一方、一部業績見通しが引き下がったロング銘柄や、一部高バリュエーションなショート銘柄がマイナス寄与しましたが、いずれも広く薄く寄与となっています。

全体として、値動きの乏しいロング銘柄も多かったことから、わずかなパフォーマンスの獲得に留まりました。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

6月の株式市場は上値の重い相場展開を想定します。5月の大幅上昇により、テクニカル指標面での過熱感がやや強まったことや、TOPIXの予想PERも切り上がり、相対的な割安感も後退したことから利益確定売りに押される可能性が高いと考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

6月の株式市場は高値圏でもみあいを予想します。円安ドル高の進行を背景に5月末までに11連騰してきたことから一旦は調整する可能性が高く、その後は米国の経済統計や金融政策見通しを睨みながら一進一退の相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

売買対象の一極集中も、対象銘柄についてはやや変化しつつあります。小型株については、全体として閑散としており、業種内、業種間のバリュエーション格差が目立つものの、一部割安株の見直しが見られるようになりました。また、業績に裏付けされた銘柄の上昇が続くなど、一定の活気も感じられます。

当面は、銘柄ローテーションを意識することによるバリュエーション修正が期待できる局面と考えます。株主還元といった大型株向きのテーマから、株主総会以降に業績への関心が戻り、次第に割安な小型株に関心が戻ってくる事を想定します。

やや会社の業績見通しが慎重な傾向にありますが、足元の進捗や第一四半期決算の内容により、株式市場が見込む年間の業績見通しは大きく変化すると思われず。

当面は、足元の業績動向に注意を払い、年間業績が好調な銘柄を中心として、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムディー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a> 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

## 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

## 当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

## ご注意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。  
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**